

報告2 推進校の授業実践について

令和3年度 がん教育総合支援事業がん教育推進校実践報告	
山陽小野田市立小野田小学校	学級数：16学級 児童数：336人
学年 第6学年	教科 学級活動
題材名 「がんについて考えよう」	
がん教育において取り扱う具体的な内容 <input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生	
使用教材 ・小学校版 補助教材：教師用指導参考資料 ・小学校版 映像教材 がん博士の「がんについての基礎知識」 ・小学校版 映像教材 「がんと生きる」エピソード1、2 本時の流れ 1/2次 1 がんの現状と原因について知る。 2 がんの治療や治療中の生活について聴き、患者の方の思いを想像する。 3 がんの早期発見・早期治療の重要性を理解する。 4 大切な人のために自分に何ができるか考える。 ・伝えたいことは何か、伝える方法にはどんなことがあるか。 2/2次 1 がんの予防と検診の大切さを確認する。 2 自分たちの市の取組や実際の検診状況について知る。 3 地域の方々に検診の重要性等、がんについて考えてもらう方法を考える。 4 自分たちの考えを発表し、市の担当の方からアドバイスをいただく。 5 計画を振り返り、ワークシートに次時の活動の計画を記入する。	
外部講師との連携 がん治療経験者 井上 裕香子 氏 山陽小野田市健康増進課 山本 真由実 氏	
教育講演会 コロナ禍のため、開催なし。	
成果と課題 (成果) ・学習前は、がんに対する恐れが非常に強かったが、前向きで活動的な生き方をされているがん治療経験者と学習する中で、がん患者にとって周囲の理解と相手への想像力が大きな支えになることを、実感を伴って学ぶことができた。 ・市健康増進課の方から、健康を守る市の取組と地域の現状について学んだ後、地域の方へ検診の重要性を呼びかける啓発ポスターを作成し、掲示する活動を行った。この学びの中で、健康的な生活を送るためには、科学的な知識と判断、実際に行動することの大切さを学ぶことができた。 (課題) ・がんに関する学習を、発達段階に応じた科学的な理解と実感を伴う学びにしていくため、小・中・高校で連携し、カリキュラムの見直しをしていくことが課題である。	

令和3年度 がん教育総合支援事業がん教育推進校実践報告	
山陽小野田市立小野田中学校	学級数：13学級 児童数：341人

学年 第2学年	教科 保健体育
題材名 「健康な生活と疾病の予防」～生活習慣病などの予防～	
がん教育において取り扱う具体的な内容 <input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生	
使用教材 ・中学校・高等学校版「がん教育プログラム」補助教材（文部科学省） 本時の流れ 1 がんについて知る。 ・がんという病気について ・日本のがんの現状について ・早期発見の重要性について ・がんの要因について 2 がん健康を害すことなく生活していくためにできることを考える。 ・自分のためにできること ・周りの人のためにできること 3 本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。	
外部講師との連携 山口県立大学看護栄養学部看護学科 准教授 吉村 眞理 氏	
教育講演会 NPO法人キャンサーネットジャパン認定 乳がん体験者コーディネーター 井上 裕香子 氏	
成果と課題 (成果) ・授業前は、がんは自分とは関わりのない病気だと考えている生徒が多かったが、授業後のアンケートではがん教育についての重要性の認識や関心が高くなっていた。 ・外部講師の先生に授業に入っていただき、いつもと違う雰囲気の中でがんについて学習できたことは、生徒にとっても自分自身にとっても大変良い学習となった。 ・教育講演会の内容は、めったに聞くことのできない大変貴重なものであった。講演後の感想から、生徒は、がんが誰でもかかる可能性のあるより身近な病気であることや、がんになった人の気持ちがどのようなものであるかを感じ取っていた。 (課題) ・この実践が、その場限りのものにならないよう、この先どのようにがんに対する関心を維持していくかという課題があると感じた。 ・昨今のコロナ禍の状況では難しいかもしれないが、保護者も授業を参観でき、講演も聞くことがで、さらに効果的な取組になるのではないかと思った。	

令和3年度 がん教育総合支援事業がん教育推進校実践報告		
山口県立小野田工業高等学校	学級数：9 学級	生徒数：283 人

学年 第1学年	教科 保健
題材名 がんについて考える	
がん教育において取り扱う具体的な内容 <input checked="" type="checkbox"/> ア がんとは（がんの要因等） <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの状況 <input checked="" type="checkbox"/> エ がんの予防 <input checked="" type="checkbox"/> オ がんの早期発見、がん検診 <input checked="" type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input checked="" type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input checked="" type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生	
使用教材 ：がん教育推進のための教材 補助教材（文部科学省） ・中学校・高等学校版 スライドモジュール1、2、3、5	
本時の流れ 1 がんの現状・原因・治療方法について知る。 2 がん患者について考える。 3 がん患者と共生できる社会について考える。 4 本時の学習の振り返り、ワークシートに記入する。	
外部講師との連携 山口県立総合医療センター がん看護専門看護師 山本 知美 氏	
教育講演会	
成果と課題 （成果） ・授業を通じて、がんについての知識が深まるとともにがん患者に対して考えようとする態度が身についた。 ・外部講師の活用により、生徒・教員ともに実際のがん患者の思いや実情などをより深く知ることができた。 ・がんの基本的な知識が身についたり、がん患者に対して考えたりするような態度が身についたことが事前/事後アンケート結果から読み取れた。 （課題） ・高校の限られた教科だけではなく、他の教科・教員（養護教諭など）との連携や協力、また、地域の方や外部講師、中学校とも連携を図っていくことも課題である。 ・がん患者に対して考える内容から更に発展させ、自他の命についても考えられるような態度を育成していくことが課題である。	